

令和3年5月25日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和3年5月25日(火曜日)

午後1時45分から午後2時15分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 青柳 由美子
委員 大久保 真紀 委員 荒木 正

4 職務のため出席した者

教育部長	安達 敏幸	子ども未来部長	水島 幸枝
教育総務課長	水島 正幸	教育施設課長	吉田 朗
学務課長	青木 佐土子	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	涌井 良平	学校教育課主幹兼管理指導主事	小畑 活
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	中央図書館長	佐藤 陽子
科学博物館長	小熊 博史	子ども・子育て課長	田中 剛
保育課長	恩田 立也		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	江田 綾子	教育総務課庶務係長	内藤 貴幸
教育総務課主事	槇田 悠子		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 26 号	補正予算の要求について
3	第 27 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会 5 月定例会を開会します。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、鷲尾委員及び荒木委員を指名します。

◇日程第 2 議案第 26 号 補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第 2 議案第 26 号 補正予算の要求についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

(水島教育総務課長) 初めに教育総務課分の説明を行います。歳入の補正額は、566 万 3 千円、歳出の補正額は 1,211 万 8 千円です。初めに歳出から説明します。昨年度、GIGA スクール構想の実現に向け、補助金により小・中・総合支援学校にタブレット端末を整備しました。さらに今年度は、高等総合支援学校において 1 人 1 台のタブレット端末を整備するため、1,080 万 4 千円を計上しています。加えて、特別支援学校の児童生徒が効果的に活用できるよう、一人ひとりに応じた入出力支援装置を整備するものとして 131 万 4 千円を計上しています。次に歳入については、低所得者世帯 90 台分の補助として 405 万円、高等総合支援学校に整備する

10 台分の入出力支援装置購入費に対する補助として 61 万 3 千円の歳入を見込んでいます。その他に、ライオンズクラブ国際協会三三三-A地区から教育資金として 100 万円の寄附金を受け入れるものです。

(小熊科学博物館長) 続きます、科学博物館分について説明します。歳入が雑入で 50 万円、歳出が博物館費として 50 万円となります。令和 4 年度に国土交通省と連携して開催予定の大河津分水路通水 100 周年記念事業のリレー展示を行う予定であり、公益財団法人日本海事科学振興財団から海の学びミュージアムサポート助成金を受けて準備調査を実施するものです。主に寺泊海岸の調査で使用する、水中カメラ等の備品や消耗品を購入するものです。

(田中子ども・子育て課長) 続きます、子ども・子育て課です。歳出の 2 億 1,428 万 7 千円については、3 月に閣議決定された国の令和 2 年度の予備費に計上されている、子育て世帯生活支援特別給付金に関するものです。新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえて生活の支援を行う観点から、ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯への給付金として、児童 1 人につき一時金 5 万円を支給するものであります。支給対象者は今年度 18 歳以下の児童を扶養する父母等であり、今年度の住民税が非課税の世帯となっています。対象となる児童数は約 4 千人を見込んでいます。議会での可決後に、必要なシステム改修や要綱の制定を行うとともに、6 月中旬以降の税情報の確定を受け対象となる方を抽出し、7 月下旬の見込みで速やかな給付を行いたいと考えています。歳入については、先に説明した事業に充当する補助金となります。

(恩田保育課長) 続きます、保育課になります。保育課の補正予算は、歳出が 2,196 万円であります。最初に、過年度の事業費の確定に伴う返還金について、国に対して 6 万 7 千円、県に 228 万 5 千円になります。なお、これにつきましては、令和元年度分であり、本来は令和 2 年度に返還すべきものであるため補正予算に計上していました。しかし、国から、新型コロナウイルス感染症に関する交付金の関係で本交付金の返還処理ができないため、令和 3 年度に返還処理をするよう通知があったため、今回改めて計上するものになります。次に、公立保育園及び幼稚園における新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、消毒作業を委託するた

めの経費を計上したものであります。保育園分が1,915万2千円、幼稚園分が45万6千円であります。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんでしょうか。

(金澤教育長) 子ども・子育て課の給付金の対象となるのは、今年度の決定で非課税となった世帯で間違いないのでしょうか。

(田中子ども・子育て課長) 今年度非課税として確定した世帯で間違いないです。

(鷲尾委員) 公立保育園・幼稚園の消毒作業委託料について、要求額が保育園と幼稚園で3桁違いますが、委託する内容が異なるのでしょうか。

(恩田保育課長) 内容は同じです。幼稚園が1園、保育園が32園であるため、施設数の違いによるものです。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 御異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定いたしました。

◇日程第3 議案第27号 附属機関委員の委嘱について

(金澤教育長) 日程第3 議案第27号 附属機関委員の委嘱について を議題とします。事務局の説明をお願いします。

(水島教育総務課長) 長岡市公立学校通学区域審議会委員について、前任者である前長岡市立脇野町小学校長の吉井純子氏が令和3年3月31日付で退職したことに伴い、長岡市三島郡小学校長会からの推薦を受け、新たな候補者に委嘱するものです。委嘱期間は、本定例会で決定した日である令和3年5月25日から、他の委員と同じく令和3年9月30日までとなります。次に、長岡市子ども・子育て会議委員について、前任者である中越教育事務所推薦の大屋未輝氏から辞任の申し出があったことに伴い、同事務所からの推薦を受け、新たな候補者に委嘱するものです。委嘱期間は令和3年6月1日から他の委員と同じく令和4年6月30日までとなります。説明は以上です。

(金澤教育長) 男女共同参画の観点から、市の附属機関委員についても女性登用を

積極的に進めています。長岡市公立学校通学区域審議会委員については、前任者が女性で後任者が男性であるため、女性登用率が下がってしまいます。今回の委嘱については、校長会の中で脇野町小学校長が充て職という扱いになっているため選任されたのだと思いますが、充て職という考え方を継続すると、女性登用は進まないのではないのでしょうか。事務局として、今後の対応はどのように考えているのでしょうか。

(水島教育総務課長) 事務局としても、充て職を続けていくとそのような状況となることを懸念しています。今回の2つの委員の女性登用率は、長岡市公立学校通学区域審議会委員については、委員28名のうち女性が11名であり39.3%、長岡市子ども・子育て会議委員については、委員20名のうち女性が12名であり60%であるため、長岡市の審議会等への女性登用推進のための指針で取り組むことになった目標値である、40%に近い数字となっています。ただし、教育長の御指摘のとおり、充て職を続けていくとそのような問題が生じてしまうことは今後の課題であると考えています。

(金澤教育長) そのような意向を各団体に伝えるとか、そもそも充て職とすることが本当に適切なのかということも含めて、事務局には検討していただきたいです。

(鷲尾委員) 長岡市男女共同参画審議会委員として、今後の会議の中で充て職主義について意見してみたいと思います。

(金澤教育長) 推薦を依頼する団体に男女共同参画という意識を持ってもらうことで、充て職という考え方も変わってくると思います。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 御異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定いたしました。

(金澤教育長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了しました。

(金澤教育長) それでは、本日は特段、協議報告事項がありませんので、催し案内等に移ります。補足説明のあるものは挙手願います。

(小熊科学博物館長) チラシを配付しておりますが、6月19日土曜日に東山ファミリーランドで生きものガイド「会えるかな？森のカエルたち」を開催します。森に生息するカエル類を観察する事業で、小学校の中学年とその保護者が対象になります。寺泊水族博物館には両生類専門の学芸員がいるので、連携して事業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで募集しています。

(金澤教育長) 他に報告事項はありませんか。

(金澤教育長) 本日は東中学校と旭岡中学校を訪問しました。校長からの聞き取り事項や学校職員との懇談会を通して気づいた、課題や今後の改善提案等について、それぞれの委員の意見を事務局にお伝え願います。では東中学校を訪問した大久保委員からお願いします。

(大久保委員) 東中ではコミュニティ・スクールに先駆けて活動をされている、『東中の未来を語る会』と『東中応援し隊』について、実際に『東中応援し隊』の保護者メンバーの方も参加されてお話を伺いました。先進的に取り組まれており、東中には意識の高い方が多くいらっしゃって、それがうまく活動につながっていると感じました。全ての学校に積極的な保護者の方が多いかという点、中々難しいとは思いますが、素敵な活動をされているので、ぜひ東中の活動を市内の学校に周知し、これからのコミュニティ・スクールの活動の参考にしていくと良いと感じました。

(金澤教育長) ありがとうございます。次に荒木委員、お願いします。

(荒木委員) 今ほど大久保委員がおっしゃった通りだと思いました。まずユニークな取り組みであり、地域の声を学校運営に生かそうとしているその姿勢については大変素晴らしいものです。逆に、その意見を全て取り入れたら学校はパンクするのが目に見えていますので、学校が建設的な意見をもう一度受け止め、いかに整理し、この部分を教職員の力でより磨いていきたいと提案する、このような姿が見えてくると、活動がより生きると思います。要するに、現場は既にパンク状態である中で、また新たな提案があるわけです。良い意見ではありますが、全て取り入れた段階でパンクすることは誰の目にも分かっていることです。スクラップ・スクラップアンドビルド、この考えに立って、提言を校長以下教職員がどのようにスキルアップし

て受け入れていくのか、これにかかっていると思いました。これが、今後求められる学校運営の第一歩であり、地域の声を受け入れることは大事ですが、私はそれ以上に教職員の熱き思いが地域に届かなければ何をしてもだめだろうと思いましたので、校長先生にその思いを伝えさせてもらいました。これが学校運営に関して私が感じたことです。どちらにしても東中は市内の中心校であり、先進的な取り組みを行っている学校ですので、その成果をやはり具体的な形で中学校長会等で還元して欲しいという思いがあります。次に、授業を見て回りました。私の教師としての見方からすると、どの教室に行っても追究課題がはっきりと見えなかったです。つまり、授業の基本について、まだ先生方が統一されていないという事が率直に感じられました。これが、忙しさのあまり基本について確認ができていなかったのであれば、確認すればいいことであり、それだけでも一気に授業の質が変わります。今は学校サイドが忙しすぎて見落としているところがあるので、東中のレベルの高い先生方ならすぐに、「あ、そうだったのか」という気づき生まれるのではないかと思います。次に、タブレットの使用方法は課題であると感じました。これは大久保委員が一番よく御存知かと思いますが、本日見た姿でタブレットを使用していると言われても、本当に活用できていると言えるのかと疑問に感じました。一方で、中学校ではそのようになってしまいがちではないかと思います。教育委員会が急いでタブレットを配付したため学校現場では準備をする時間がなかった、それを前提にして、ここで準備をする時間を作らねばだめだという意識を持ってもらうことが大事だろうという思いを持ちました。

(金澤教育長) ありがとうございます。次に、旭岡中学校について、青柳委員、お願いします。

(青柳委員) 旭岡中学校については、地域と学校がとてもうまくいっていると感じました。従来からお住いの方々も新たに住人となった方々のことを快く受け入れられ、また、新たに住人となった方々も従来からお住まいの方々に敬意を持って関わっている、そのようなとても理想的な関わり方があると校長先生からお話がありました。学校内でも管理職が一方向的に若手の指導に当たるということではなく、若手の方からも学ぼうとする管理職の姿もありました。先生方の関わり方もうまくいっており、生徒も落ち着いていました。学校目標の中にある『学びあう』『認め合う』

のように、『何々しあう』という言葉がよく使われているのですが、相手があって自分があるという考えの下で学んでいる様子がとても伝わってきました。そして、今後生徒が一気に増え、また減る時代もやってくる、その時のことも見据えて今現在の指導にあたっており、とても気持ちの良い学校でした。学びの特徴としては、ホワイトボードの活用に力を入れており、自分の意見が明確化していない状態の時に思ったことを書いておき、相手に伝えるために提示し、意見を伝えるきっかけとなるような使い方をしているということでした。しかし、今回その場面に出くわすことができなかつたことが残念に思いました。

(金澤教育長) ありがとうございます。最後に鷺尾委員、お願いします。

(鷺尾委員) 学校訪問の際、企業経営者の立場から、リーダーである学校長がどれだけ学校を掌握しているか、あるいは裸の王様になっていないか、そのような目線で見えています。管理職の顔色をうかがいながら話をする教職員がいる学校は往々にありがちなのですが、旭岡中学校では個々の先生方がのびのびと話しており、校長先生の人柄なのだと思って見ていました。また、校長先生も話し過ぎず、一方で伝えたいことは明確に伝えており、非常に素敵なお学校だと感じました。生徒については、教育委員として学校訪問をした中で3本の指に入るくらい落ち着いており、想像した限りではありますが家庭環境も影響しているのかと感じました。そのような中で、タブレットの活用法については課題を感じました。意見交換会の中でも、旭岡中学校だからタブレットを自宅に持ち帰る実験的な取組みをぜひやって欲しい、この学校ならできるのではないのでしょうかと意見させていただきました。やはり Edu-Diver、多様な学び、個々の興味・価値観・問題意識の中で深堀していくツールとして、タブレットを持ち帰って家庭でも使えることがあるべき姿かなと思います。話はそれますが、株式会社ドワンゴが運営しているN中等部は、初年度の1年間のうちに募集定員の10倍の子どもたちが入学しているそうです。結論から言うと、これは長岡市がやろうとしていることではないか、Edu-Diverではないかと感じました。中高年の先生方があわせていくのは大変だと思いますし、課題もあるでしょうが、とにかくタブレットをどう使いこなすか、そこに焦点をあてて取り組んでいただきたいと思います。

(金澤教育長) ありがとうございます。安達教育部長は初めての学校訪問でした

が、いかがでしたか。

(安達教育部長) 私がこれまで関わってきた中学校と比べると、教員が板書をして一方的な授業だったものが、様々な教材を使いながら、教員と生徒がある程度交じり合って近い存在となっており、時代は変わったのだなというのが率直な感想です。また、先ほど青柳委員及び鷺尾委員の発言にあったとおり、非常に穏やかな学校で、個々の机の周りが整理整頓されていて、乱れのない学校だなという印象を受けました。

(金澤教育長) 今出た意見が現場の生の姿なので、事務局においては、対応できるところはぜひ対応してもらいたいです。特にタブレットの活用方法については、どのように使用できるかということはまだ模索もしていない段階であり、調べ学習に使ってはいますが、本来のタブレットの活用というところまで踏み込んでいないように感じました。早急に学校現場に教育委員会の意思表示をしないと、暗中模索で右往左往してしまうと思いますので、ぜひスピード感を持って取り組んで欲しいです。

(金澤教育長) その他、御意見、御質問はありませんか。

(金澤教育長) 以上で、本日の定例会を閉会します。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員